

市町村の災害対応を支援する！！

Integrated-System of Disaster Reduction 4(for) Municipalities
(市町村災害対応統合システム)IDR4M
(アイディアル・フォー・エム)

災害情報の一元化

① 降雨や水位予測、気象警報や警戒情報など避難指示の意思決定に必要な情報をまとめて表示

1つの画面で雨や水位などの情報がみられるので使いやすい。



C市防災担当者の体験談

リードタイムの確保

② 6時間先までの災害リスクの推移を10分更新で表示

IDR4Mの6時間先までの予測により早めに準備、発令が可能となり、住民の余裕を持った避難につながるのありがたい。



A市長の体験談

発令範囲の絞り込み

③ 小エリアごとの災害リスクの状況を地図や一覧表で表示



IDR4Mの小エリアごとの災害リスク情報により、より多くの住民の避難行動につながるきめ細かい発令ができる。

B市長の体験談

避難指示を発令する市町村にとっての課題

- ① 意思決定に必要な情報が様々なサイトに散っており、情報収集の手間がかかる。
- ② 急に「警戒レベル3」相当のような情報が出るため、時間に余裕を持った対応ができない。
- ③ どの地区で災害リスクが高まっているのかわかる情報がないため、とりあえず全域に避難指示を発令するという現状がある。

IDR4Mの画面

災害リスクに基づく判断支援

2024/04/05 12:34

更新



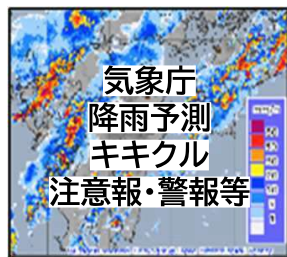
洪水ハザードの表示イメージ



特徴①：一つの画面で災害情報等を閲覧できる

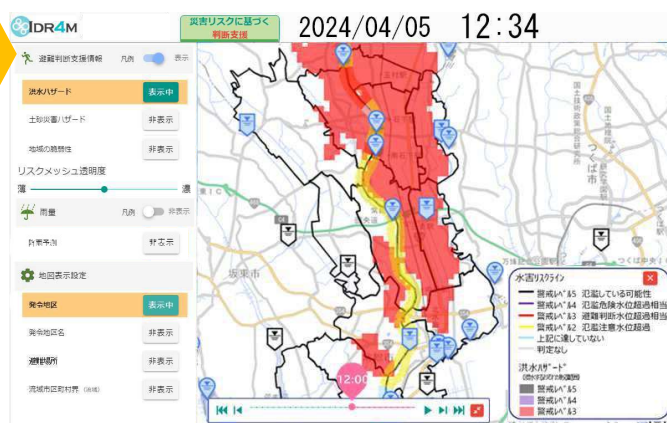
●これまで

- 避難指示等の発令を検討するための情報等が、ばらばらに提供されていた。(気象庁、川の防災情報、浸水ナビ等のHP)



●IDR4Mを導入

- 災害情報等を一つの画面上で確認できる。



避難指示等の発令の検討に必要な情報を一つの画面に集約

⇒少ない人手で適切な災害対応を実現

特徴②：リードタイムを十分に確保できる

●これまで

- 気象庁キキクルでは、3時間先までの予測
- 各種警報などはほぼリードタイムなく発表される場合もある



●IDR4Mを導入

- 6時間先までの河川水位情報を基にした洪水発生予測情報を提供
- 洪水発生による6時間後の浸水の影響範囲を発令地域に重ねて一目で把握できる



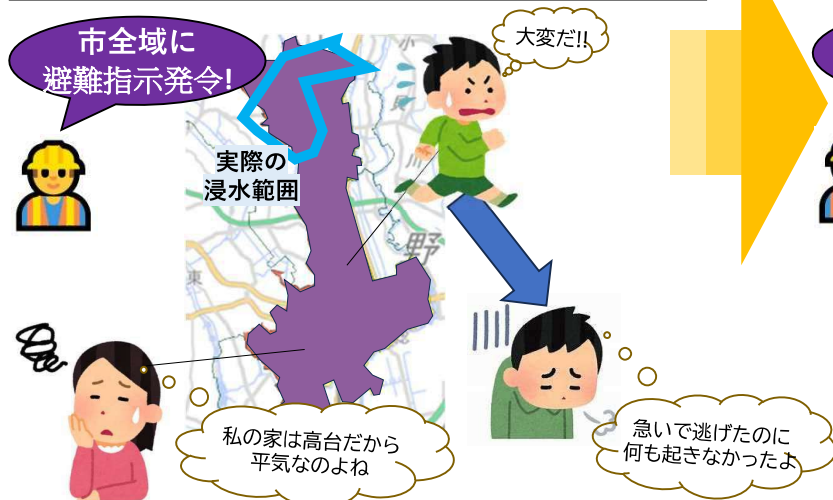
長時間予測でリードタイムを確保できる

⇒住民の安全な避難、自治体職員の適切な対応を同時に実現

特徴③：ピンポイントで避難情報を発令できる

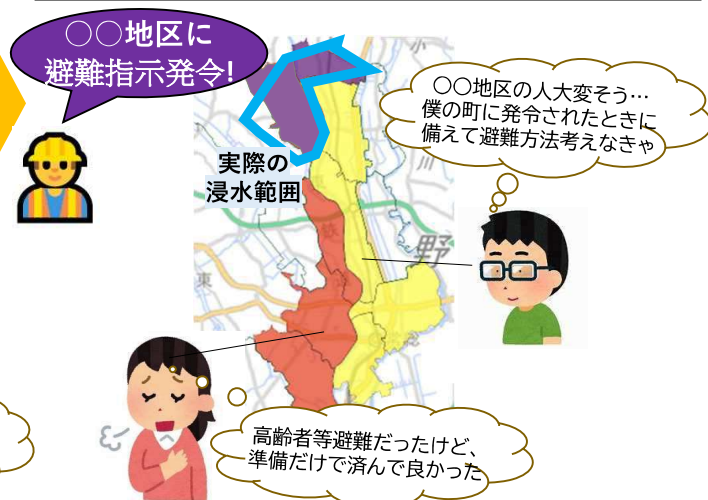
●これまで

- 事前にハザードマップ等で氾濫域を確認しているため、越水・破堤箇所によっては浸水が及ばない地域にまで発令してしまう



●IDR4Mを導入

- 越水・破堤の危険性が迫っている箇所から、実際に氾濫が発生した場合の被災範囲を把握できるため、発令が不要な地域を除外できる



適時的確な避難指示により、避難情報に対する信頼を向上

⇒市町村と住民が一体となって逃げ遅れを抑止

特徴④：ウェブホットラインの意見交換をスムーズに

●これまで

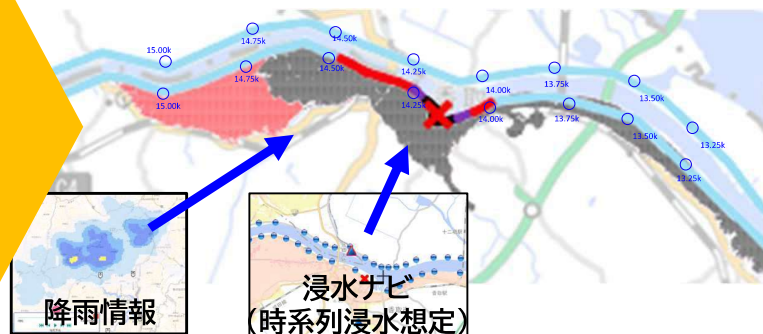
- 災対室の複数画面などに同時に様々な資料を表示していたが、縮尺、凡例、ランドマークの違いなどにより説明がし辛かった



災対室のイメージ

●IDR4Mを導入

- 一つの画面上に情報を集約かつ重ねて表示できるため、市町村との意見交換がスムーズになる



河川水位予測の一覧

河川名	地点	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
鬼怒川・小貝川	黒子	5.51	6.12	5.92	7.21	7.56	8.13	8.31	9.00	10.38
	上郷	4.19	4.55	5.12	6.46	7.50	6.93	6.88	7.10	7.22

同じ画面・同じ情報を同時に見ながら意見交換を行うことで、

スムーズかつ的確な意思疎通が可能となる